佐潟新聞

赤塚小学校
チームア

短歌

ぼくたちが
昔と同じ
ハスの花
佐潟の池に
さか世ていこう

明治時代のハス

明治時代の佐潟はハスの群生地として知られ、地域住民の生活や経済に深く関わっていました。当時の佐潟におけるハスは単なる観賞用ではなく、実用的な資源として重宝されていました。

赤土家小への取りくみ

今年度私たち5年生は、4月にハスの種をけずってペットボトルで、発芽させました。6月には、佐潟のドロを入れたバケツに移植して大きく育ちました。6年生になったら今度はいよいよ佐潟に移植させる予定です。

佐潟のハス

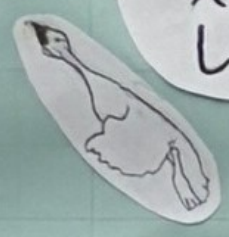
新潟市西区のラムサール条約登録湿地「佐潟」のハスの花は、7月中旬から8月中旬が見頃で、夏を彩る風物詩です。人の背丈を超える大きなハスの葉と美しい花々が沼面を覆い尽くす景色は、地域の「里潟」としての象徴的な景観として親しまれています。



佐潟の鳥

佐潟の自然が鳥にとって住みやすいかんきょうなのでたくさん鳥が佐潟に飛来しています。

佐潟に来ている主な鳥
コハクチョウ　マガモ　タカ　アオサギ
カッコウ　カワセミ　ウグイスなどなど





まとめ

・これからも鳥にとって住みやすい佐潟にしたいです。
・これからも佐潟の自然をもっと知りたいです。
・これからもハスを大事にしていきたいです。
・これからも佐潟を守っていきたいです。
・これからも佐潟の植物を増やしていきたいです。
・これからも佐潟の鳥を大切にしていきたい。

近年の佐潟のハスの歴史

～2016年　ハスが潟一面にあった
2017年　ハスが減り始めた
2018年　ハスが完全に消滅
2020年　ハス復活プロジェクト始動
2021年　赤土家小学校児童による栽培開始
2024年　ネットで囲った中でハスを育成
2025年　新潟市から予算が出て木の囲いができる

2026年木の囲が増加4→10へ









参考引用文献
・赤塚小学校地域ボランティアの皆様によるお話
・潟のデジタル博物館
https://www.niigata-satokata.com
・赤塚小学校児童撮影